

第26回 聞き書き甲子園

協力市町村(地域) 募集のご案内

あなたの地域の「名人」の物語を、
未来へつなぎませんか。

名人 × 高校生

高校生が地域の名人と向き合い、働くこと、生きることを記録する取り組みです。

その舞台をぜひ、あなたの地域で

応募締切：2026年9月4日(金) 17時まで

【主催】聞き書き甲子園実行委員会

農林水産省、文部科学省、環境省、公益社団法人国土緑化推進機構、NPO 法人地球緑化センター

地域の「誇り」を未来へ。

聞き書き甲子園とは



「聞き書き甲子園」は、全国の高校生が、農山漁村で自然と向き合いながら生きる「名人」を訪ね、その知恵や技、生きざまを「聞き書き」し、一冊の作品として記録・発信する活動です。

「名人」とは、林業や漁業、伝統工芸など、地域の自然に向き合い、その土地の暮らしや文化、伝統を守りながら、「なりわい」を営んでこられた方々です。高校生は一对一で各地域の名人を訪ね、対話を通してその言葉を一言一句もらさず書き起こして作品にまとめます。このプロセスを通じて、高校生は「生きること」や「働くこと」の本質を学びます。



● 聞き書きにより結ばれる —— 人と自然、世代と世代



高校生が名人の語る人生を受け止める中で共感や敬意が生まれ、世代を超えた絆が育まれていきます。さらに、見知らぬ地域の自然に触れ、「自然と向き合う大切さ」や「地域ごとに受け継がれてきた生活文化の豊かさ」を実感します。

高校生が真剣に耳を傾けた作品に向き合うことは、名人にとっても自分の歩みを振り返る機会となり、明日への活力につながります。

人と自然、人と人、世代と世代をつなぐ

● 聞き書きによって育まれる —— 地域の新しい魅力



「聞き書き」によって生まれる名人と高校生の絆は、若者にとってその地域を「第二のふるさと」と感じさせる特別なものへと変えていきます。まるで本当の祖父母と孫のように交流を続け、中には大学生や社会人になってから1・Uターンする卒業生も生まれるなど、将来の関係人口につながる地域への愛着を育みます。

また、日常の中にある名人の知恵や生き方が、高校生の手によって一冊の「作品」という目に見える記録として残ることは、地域の方々の歩みや誇りを再認識するきっかけとなり、次世代へ語りつぐべき大切な記録となっていくはずです。



● 地域の負担を最小限に —— 安心して受け入れられるサポート体制

皆さまの地域で高校生を安心して受け入れていただけるよう、以下のような仕組みを整えています。

① 地域の負担を 軽減する仕組み	② 高校生が自立して 取り組める仕組み	③ 地域に成果が 還元される仕組み
・ 高校生の旅費・滞在費は主催者が負担します。 ・ 取材への同行は原則不要です。 名人と高校生の一対一の対話を大切に、地域の皆さまの時間的負担を最小限に抑えています。	・ 事前研修で「聞き書き」の方法を実践的に学びます。 ・ 卒業生が実習や作品制作をサポートします。 初めての地域でも、高校生が主体的に活動できる体制を整えています。	・ 完成した作品集とデータをお渡しし、地域の記録や情報発信に幅広くご活用いただけます。 ・ 地域報告会を開催される場合には、補助金をご用意しています。 可視化された名人の歩みや地域の魅力は、地域づくりや教育などに活かされます。

地域と高校生の出会いを、より価値あるものにしていきたいと考えています。本事業の趣旨にご賛同いただき、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2026 [令和8年]

第26回 聞き書き 甲子園の 流れ



5月

協力市町村(地域)を公募

応募書類をメールで提出してください。
10月末までに採択結果を通知します。

9月

11月以降

高校生が取材する「名人」を推薦

地域の「名人」※原則6～8名をご推薦ください。

※推薦いただく「名人」は、森・川・海など地域の自然と関わる仕事先人からの知恵や技、心を受け継いできた概ね50歳以上の方を想定しています。

※推薦名人の人数はご相談いただけます。



第24回参加高校生

聞き書き作品ができるまで(令和9年度)

5～6月

応募する

よし、頑張って
参加申込書を書くぞ！



参加者に
選ばれた！



8月

研修 都内・宿泊アリ

OB・OGの大学生たちが聞き書きのコツを教えてくれた。
最初は緊張したけど全国に友達
ができたよ！



名人に
アポを取る



2027 [令和9年]

2028 [令和10年]

5月
中旬

推薦いただいた「名人」の人数に応じて全国の高校生を募集

高校生の募集とあわせて、協力市町村(地域)決定のプレスリリースを行います。

8月
中旬

研修会への参加

参加高校生の研修会を開催します。各市町村(地域)担当者は、1泊2日でご参加ください。「聞き書き」する高校生と「名人」のマッチング等を行います。

8月
下旬

高校生による「聞き書き」取材のサポート

「名人」の取材は、原則として高校生が一人で行います。取材日は、事前にお知らせしますので、必要に応じてサポートをお願いいたします。

高校生の「聞き書き」と
作品づくりの期間

12月
下旬

「聞き書き作品」の内容を確認

「作品集」を製作するにあたり、高校生が提出した作品内容をご確認いただきます。

3月
下旬

フォーラム(成果発表会)への参加

優秀作品には大臣賞等を授与します。参加高校生は、取材した地域ごとに発表を行います。当日は「名人」の代表者数名もご招待し、登壇いただきます。各市町村(地域)の皆さまも、当日、ご参加ください。

4月
下旬

「聞き書き作品集」を配布

参加した高校生のほか、関係機関等に「聞き書き作品集」を配布します。各市町村(地域)には、「名人」の人数分プラス10冊を贈呈させていただきます。また、作品データをお渡しいたしますので、広報等にご活用ください。

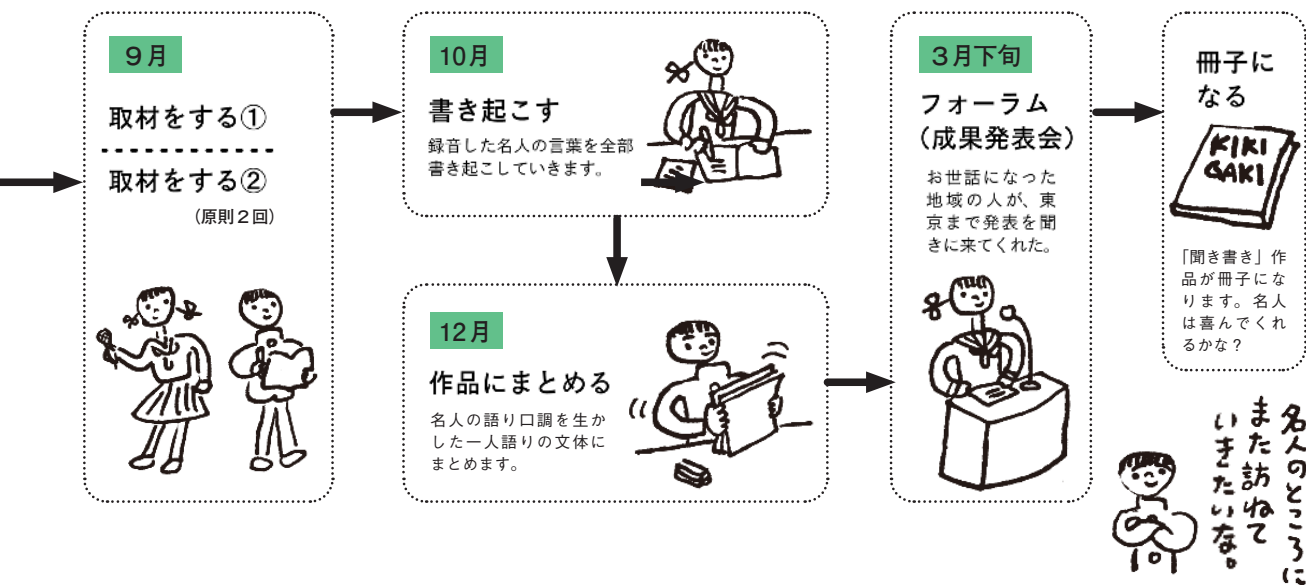


5月

協力市町村(地域)による地域発表会の開催(任意)

市町村(地域)単位の地域発表会の開催をご検討ください。開催にかかる費用の一部は実行委員会が補助します。

12月





聞き書き甲子園 協力市町村(地域) 募集概要



応募対象 市町村(地域)

市町村を窓口として「地域団体」(※1)が実質的な主体として申請することや、複数の市町村が連名で申請することもできます。

【ご協力いただく内容】

- ① 令和9年度「第26回聞き書き甲子園」において、高校生が「聞き書き」を行う対象となる「名人」(※2)を、原則6～8名(※3)推薦いただきます。
- ② 選定された名人には、令和9年8月下旬以降に高校生による「聞き書き」取材(原則2回)にご協力いただきます(高校生の旅費等は主催者が負担します)。
- ③ 事前研修会・フォーラムへのご参加や、高校生の受け入れ等についてご協力をお願いいたします。

※1
地域団体とは、地域自治組織や市民活動団体、事業協同組合等を指します。

※2
「名人」とは、林業・水産業・工芸など、森・川・海など地域の自然とかかわる仕事に長年従事し、先人からの知恵や技、心を受け継いだ概ね50歳以上の方を想定しています。

※3
名人の人数については、ご相談いただけます。

募集期間 令和8年5月8日(金)～9月4日(金) 17時必着

募集要領 聞き書き甲子園[市町村(地域)の方へ] <https://www.kikigaki.net/join/>

「協力市町村(地域)公募要領」に定める申請書(様式1)及び申請地域概要説明書(様式2)を聞き書き甲子園事務局宛にメール添付で提出してください。様式1、2は上記URLよりダウンロードいただけます。



選考結果 令和8年10月末までに文書により通知します。

名人の推薦 選定された市町村(地域)には、令和9年1月までに「名人」を推薦いただきます。

※上記サイトに「名人推薦要領」を掲載しています。あわせてご確認ください。

応募先・お問い合わせ

〒104-0032 東京都中央区八丁堀 4-11-3 金谷ビル 2 階 201 NPO 法人緑化センター内
聞き書き甲子園実行委員会事務局

TEL : 03-5542-0132 FAX : 03-5542-0136 E-mail : contact@kikigaki.net

[これまでの協力地域]

「聞き書き甲子園」の実施は、市町村の農林水産課、企画課、地域振興課、移住定住課などの行政機関を中心に、民間団体や公共施設、教育関連機関など地域の多様な担い手にご協力いただいています。

全国延べ88地域で実施

- 第18回受入れ地域 (12地域)
- 第20回受入れ地域 (11地域)
- 第21回受入れ地域 (14地域)
- 第22回受入れ地域 (13地域)
- 第23回受入れ地域 (11地域)
- 第24回受入れ地域 (15地域)
- 第25回受入れ地域 (12地域)

※これまでの実施地域は、公式ウェブサイト「市町村（地域）の方へ」でご確認ください



協力市町村 (地域)の声

人生の語りが心をひらく

「聞き書き」は、それぞれの作品ができる以上の成果がありました。高校生の純粋でまっすぐな質問は名人の心の奥に届きます。名人は深く自らの心の中にもぐり、答えを探します。名人は、「聞き書き」を通じて人生の棚卸をしているようでした。生きてきた道を振り返る名人の顔はとても穏やかです。そのような名人の姿を見ることで、高校生もまた自分の人生を深く考えるきっかけとなりました。参加したことが進路を決めるきっかけとなった高校生もいました。

(新潟県柏崎市市民活動支援課・特定非営利活動法人 aisa)

だいじなものを見つけるチャンス

郡城市立図書館は、全国の聞き書き作品を収集していく方針の下、「聞き書きコーナー」をつくっています。図書館の運営理念は「ひとりひとりが《だいじなもの》をみつめていくために」としていますが、「聞き書き甲子園」はまさに名人たちの仕事や暮らしの中から《だいじなもの》をみつめていく機会になったのだと思います。高校生に連れられて名人ご夫妻も図書館にいらっしゃいました。ひとびともつなげていく素敵な取り組みです。(宮崎県郡城市生涯学習課・郡城市立図書館)

木のまちの歴史が伝わる

「木のまち鹿沼」を支える「名人」の想いととも、地域の歴史を伝えられる素晴らしい機会をいただきました。今回はオンラインでの取材となりましたが、高校生と共通の趣味で話が盛り上がり、終始笑い声が聞こえる楽しい聞き書きが行われ、参加して本当に良かったと感じています。「その生業は自分の一部」と話す名人のひとつひとつの言葉が、人生の岐路に立つ高校生の背中を押してくれました。彼らにも生きがいのような仕事が見つかることを願っています。(鹿沼市経済部林政課)

地域を支える人の想いが未来につながる

「クヌギ林とため池がつなぐ国東半島・宇佐の農林水産循環」は、平成25年に世界農業遺産に認定されました。この地域の営みを未来に伝える取り組みの一つとして、農林水産業に真摯に向き合う人々の姿を高校生に知ってほしいと考え、地元の高校生による「聞き書き」の活動を続けています。今回は全国の高校生が名人の知恵や技術のみならず、それぞれの想いをも受け止めてくれたに違いないと、彼らの今後に期待しています。(大分県農林水産企画課 世界農業遺産推進班)



聞くことから、 はじまる 「聞き書き」という手法

「聞き書き」は、話し手の語り口そのままに作品が構成されています。しかし実際は、話し手と聞き手の **対話から生まれていく** ものです。

聞き書き甲子園に参加する高校生は、日本各地の名人を一人で訪ね、その土地で受け継がれてきた知恵や技、そして人生を、真正面から「聞く」ことから始めます。名人との対話はすべて録音し、一言一句を書き起こし、語り口を生かした“その人自身の物語”へと仕上げていきます。

できあがった作品を読むと、まるで名人が目の前で語りかけてくれているように、息遣い、土地の匂い、暮らしのリズムまでが立ち上がってくるようです。

森、川、海、里—その土地の自然の鼓動に合わせて続いてきた暮らしの積み重ね。そこで育まれた知恵や誇りを聞き、次の世代へ心を伝えていくことこそが「聞き書き」の意義です。

**長年働き続けた人は、どんな思いで日々を重ねてきたのか。
地域の自然とどう向き合い、人と人がどう支え合ってきたのか。
生きるとは何か。働くとは何か。地域とは何か。**

高校生は、名人の言葉を通して、その答えに触れます。

そして名人の心に寄り添い、自分自身の生き方を重ね合わせていきます。

初めて訪れる土地で、その地を支えてきた名人と出会い、真剣に耳を傾け、作品として紡ぎ出す—。

高校生が紡いだ物語は、地域の人々の歩みを未来へ残す大切な記録となり、その体験そのものが、高校生にとっても、地域にとっても、かけがえのない財産になります。

あなたの地域にも、語り継ぐべき“名人”がいます。作品を読めば、真摯に生きてきた一人の人の息遣いを感じ、その人が生きてきた風土を好きになると思います。ぜひ「聞き書き」の舞台となってください。

以下のページでは、『第18回聞き書き甲子園聞き書き作品集』（令和2年3月発行）より、高校生の作品の抜粋と感想文をご紹介します。

きっと、あなたの地域にもこんな物語があるはずだと感じていただけるはずです。

A person wearing a blue winter suit and a yellow helmet is tapping a large maple tree in a snowy forest. The person is using a tool to collect sap from the tree. The ground is covered in snow, and there are many bare trees in the background.

中善寺善三

特産品づくり・80歳・山形県飯豊町

飯豊町の良さを外に伝えていこうってことで、地域でいろんな活動をやってる。メープルシロップづくりは、平成17年から始めたんだ。天然のイタヤカエデがいっぱいあったからやってみようと思って。地元のものでお土産作ろうってことだったんだ。

イタヤカエデの樹液が溜まるスピードはお天気次第なんだ。お天道様が出てあったかい時期だと良く溜まる。でも天気が悪いと出てこねえ。木さおそらく冬の寒さで凍らないために甘い汁を溜めてると思うんだ。だからそれを探るっちゃうんは、木に対しては悪いことをしてるんだ、人間が。だから山の神とかその木の精に対して、分けてくださいって感じで謝ってもらってくる。木は宝なの。木い伐ってしまったら、あと終わりだから。だけんども製品にすれば価値になる。だから木は大事にしろって頼んでっけんだ。

中善寺さんの住む地域では、行政と住民の皆さんが協力して積極的に町おこしに取り組んでいます。こういった背景がなかったら、メープルシロップが町役場の方の声がけで商品化されることもなかったのだと思います。作品では名人のお仕事に加えて、地域のことも一緒に伝えたいと思いました。もう一つ、心に残っていることがあります。「木は宝なの」に続くお話です。何年もかけて育った大切な地域の財産。その価値を持続的に引き出せる方法で使いたい。とても理にかなった考え方だと思います。限りある資源を使うのなら、最良の方法で。取材を通して学んだ、この教訓を今後生かしていきたいです。 **江波戸彩花**（栃木県立宇都宮女子高等学校2年）



アユ漁は9歳から、狩猟は20歳の頃からやっています。アユ漁は、市販の網は使わずに自分で試行錯誤して作ったオリジナルの網を使って、投網漁をしとる。何が違うかというところ、私の網は市販の網と比べて目が粗い。目が粗いさかいに沈むのが速い。水圧がかかりにくくて網の据わりがいいんや。粗い目から目の個数を少しずつ増やして綺麗な釣鐘型や。今、倉庫に16、17種類ある。投網の作り方は設計図に残してある。最近は網を手ですいて作る人が少なくなってきたもんで、後継者もなっかなか見つからん。1段編むのに3時間ぐらいかかるさかい、割に合う作業ともいえんしね。でも、こんな網、世界じゅう探してもない。山本さんオリジナルの網や。

聞き書きは単なる取材ではなく、たくさんの出会いがありました。太陽の光がキラキラ反射する南川。市販の網とは何もかもが違う名人の網。何度も檻に体を打ち付けて脱出しようとする雄々しいイノシシ。そして山本さんと奥さんのあみ子さん。日本は私が思っているよりもずっと広くて、知らない世界がたくさんあることに気づかされました。悪天候で投網体験ができなかった私に「また来年おいで」と言ってくださった山本さん。聞き書きが終わっても、山本さんと私の関係は変わらないと実感できて嬉しかったです。これからも新しい世界に飛び込むことを恐れず、人生を素敵な出会いで満ち溢れたものにしていきます。

道前結（兵庫県 神戸女学院高等学部1年）

参加高校生 の声



74歳のおじいちゃんが、こんなにも
パワフルで、エネルギッシュで、目
が生き生きしているとは知らなかつ
た。一つのことに打ち込む姿は、見
ていて惚れ惚れした。

(宮崎第一高等学校2年 廣兼綾香)

地方創生について、本では理解してい
たのですが、そこにどんな人がいて、地方
がどう動いているのかを考えたことがあ
りませんでした。名人の想い、地域への
愛。結局、カタチではなく、人なんだと
気づくことができました。

(大阪星光学院高等学校2年 大和弘明)



名人の話を聞く中で、日本の森の「悲鳴」が
肌を伝わるように感じました。

(石川県立金沢伏見高等学校2年 脊戸大樹)

技術は技術だけで伝わっていくのではないと思
います。必ずその裏には、先人たちの想いや英知が
こめられています。

(鳥取県立倉吉総合産業高等学校2年 高見亮摩)

自分の目で見、耳で聞き、手で触れる
ことを通してわかることを大切に
していきたい。そうすることで、身の周
りのあらゆるモノ、コトが自分にとっ
て“生きもん”に見えてくると思う。

(和光高等学校1年 片波見せるさ)



「聞き書き甲子園」は、以下の企業・団体のご支援・ご協力により開催しています。

【募金・企業寄付】株式会社ファミリーマート

【協賛・協力】公益財団法人一ツ橋文芸教育振興会、富士フィルムホールディングス株式会社、京王電鉄株式会社、株式会社ティムコ、株式会社ベネッセコーポレーション

【後援】総務省、全国知事会、全国市長会、全国町村会、全国山村振興連盟、一般社団法人全国過疎地域連盟、NPO 法人「日本で最も美しい村」連合

ファミリーマートは「夢の掛け橋募金」を通じて、この活動を応援しています。



「聞き書き甲子園」の活動について、もっと知るには

●聞き書き甲子園ウェブサイト

「市町村の方へ」のページにこれまでの実施地域を掲載しています。また、「聞き書きの本棚」では、これまでの聞き書き作品を紹介しています。



URL: <https://www.kikigaki.net/>

聞き書き甲子園

●聞き書き甲子園電子図書館

過去の作品と名人のプロフィールを検索し、閲覧することができます。全文をご覧いただくには登録が必要です（有料）



<https://www.kikigaki.net/>

●公式 SNS

活動の様子や参加者の感想、聞き書きの方法等をご紹介します。



YouTube



facebook



Instagram

お問い合わせ

聞き書き甲子園実行委員会事務局 (特定非営利活動法人 地球緑化センター)

〒104-0032 東京都中央区八丁堀 4-11-3 金谷ビル 2 階 201

TEL : 03-5542-0132 FAX : 03-5542-0136

e-mail: contact@kikigaki.net <https://www.n-gec.org/>



特定非営利活動法人
地球緑化センター

地球緑化センターは「緑・人を育む」をテーマに社会や人の生き方を見つめてきました。環境問題や農山漁村の過疎化などに對し、市民が考え行動できるような企画や情報発信、人材育成に取り組んでいます。

